

# 定期巡回随時対応型訪問介護看護 について

コウダイケアコールセンター  
管理者 久米 和人

## 1. コウダイケアサービス(株)の概要

神戸市中央区八幡通3丁目1番14号 3階

- 平成7年11月設立
- 平成8年～介護サービス業務を開始

(現在、18年間の介護事業での運営実績がございます)

コウダイケアサービスでは、近年、核家族化や独居高齢者や老々介護の増加でケアニーズの多様化も進んでおりますが、「住み慣れた地域社会の中で安心して暮らしていきたい」という願いを18年間の提供実績を活かし、看護・介護で実現に向けたサポートに努めております。

## 2. コウダイケアサービス(株)の事業一覧

- ・平成26年2月現在、兵庫県内において

### 【神戸市】

- ◆訪問介護5拠点
- ◆訪問看護2拠点
- ◆居宅介護支援3拠点
- ◆通所介護1拠点
- ◆福祉用具1拠点
- ◆定期巡回・随時対応型訪問介護看護 2拠点

### 【尼崎市】

- ◆訪問介護1拠点
- ◆居宅介護支援1拠点
- ◆グループホーム1か所

を事業展開し、ケアサービス提供を行っております

2

## 3. コウダイケアコールセンター

### 【定期巡回随時対応型訪問介護看護】

- ・ 実施地域: 神戸市中央区(一体型)  
平成25年1月～指定認可、3月～提供開始
- ・ 実施地域: 神戸市兵庫区(連携型)  
平成26年1月～指定認可、3月～提供開始
- ・ 営業日・サービス提供時間: 年中無休・24時間
- ・ オペレーター及び計画作成責任者、訪問看護師、訪問介護員(定期・随時): 15名以上
- ・ 契約者数: 18名(2月までの提供実績)

3

## 4. 24年度介護保険改定の基本的視点

### ① 地域包括支援システムの基盤強化

- ・高齢者の自立支援に重点を置いた在宅・居住系サービスの提供
- ・要介護度が高い高齢者や医療ニーズの高い高齢者に対応した在宅・居住系サービスの提供
- ・重度者への対応、在宅復帰、医療ニーズへの対応など、各介護保険施設に求められる機能に応じたサービス提供を強化

### ② 医療と介護の役割分担・連携強化

- ・在宅生活時の医療機能の強化に向けた、新サービスの創設及び訪問看護、リハビリテーションの充実並びに看取りへの対応強化
- ・入退院時における医療機関と介護サービス事業者との連携促進

### ③ 認知症にふさわしいサービス提供

- ・小規模多機能型居宅介護、認知症デイ、認知症グループホーム、特養、老健、介護療養型において必要な見直し

4

## 6. 地域包括ケアの推進

### ① 在宅サービスの充実と施設の重点化

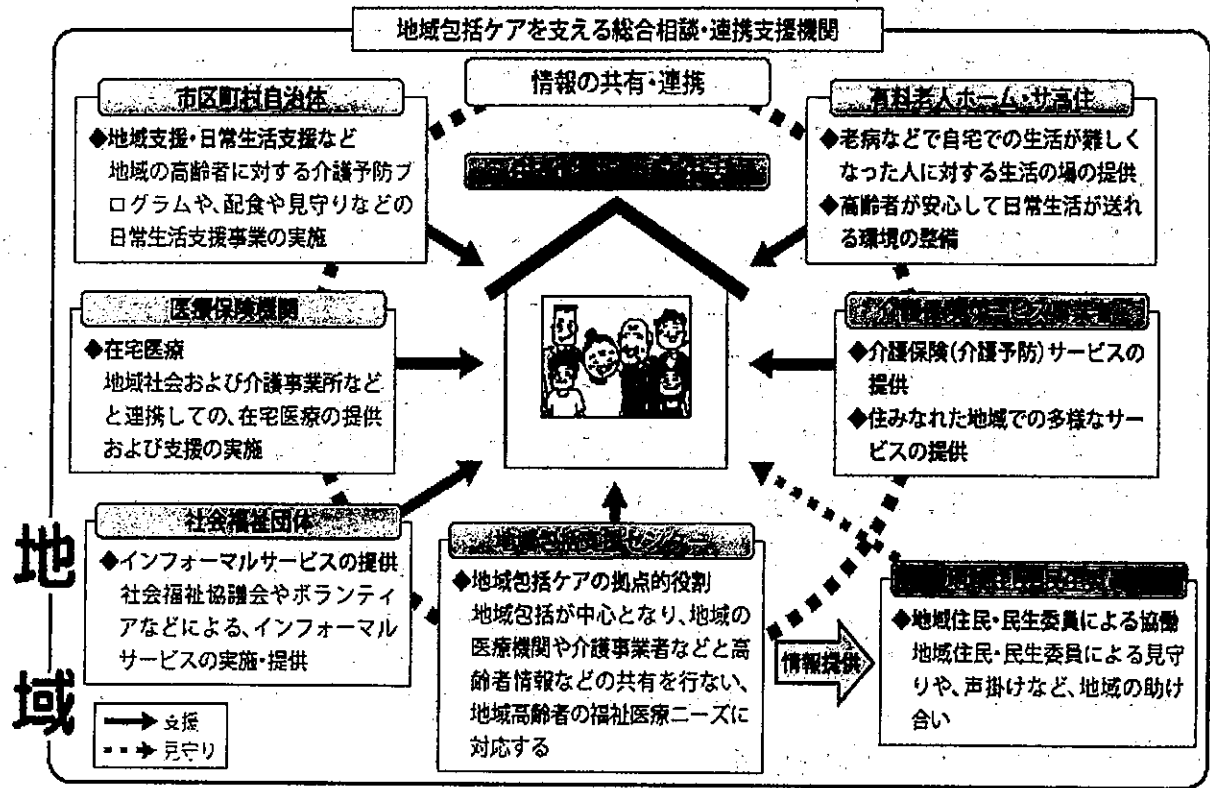
### ② 自立支援型サービスの強化と重点化

### ③ 医療・介護との連携・機能分担

### ④ 人材の確保と質の向上

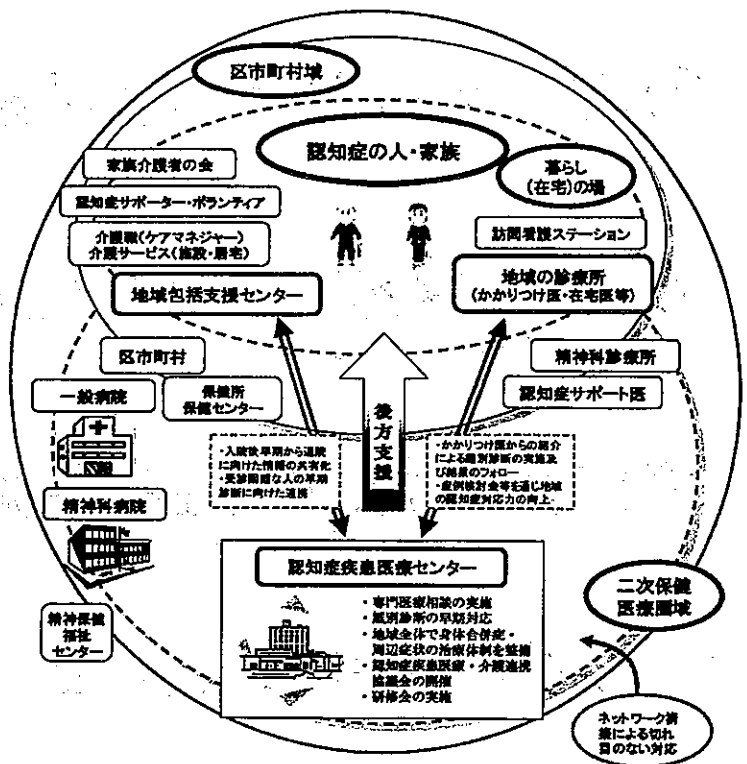
5

# 7. 地域包括ケアシステムの構図



# 8. 認知症状を患った利用者への包括的支援

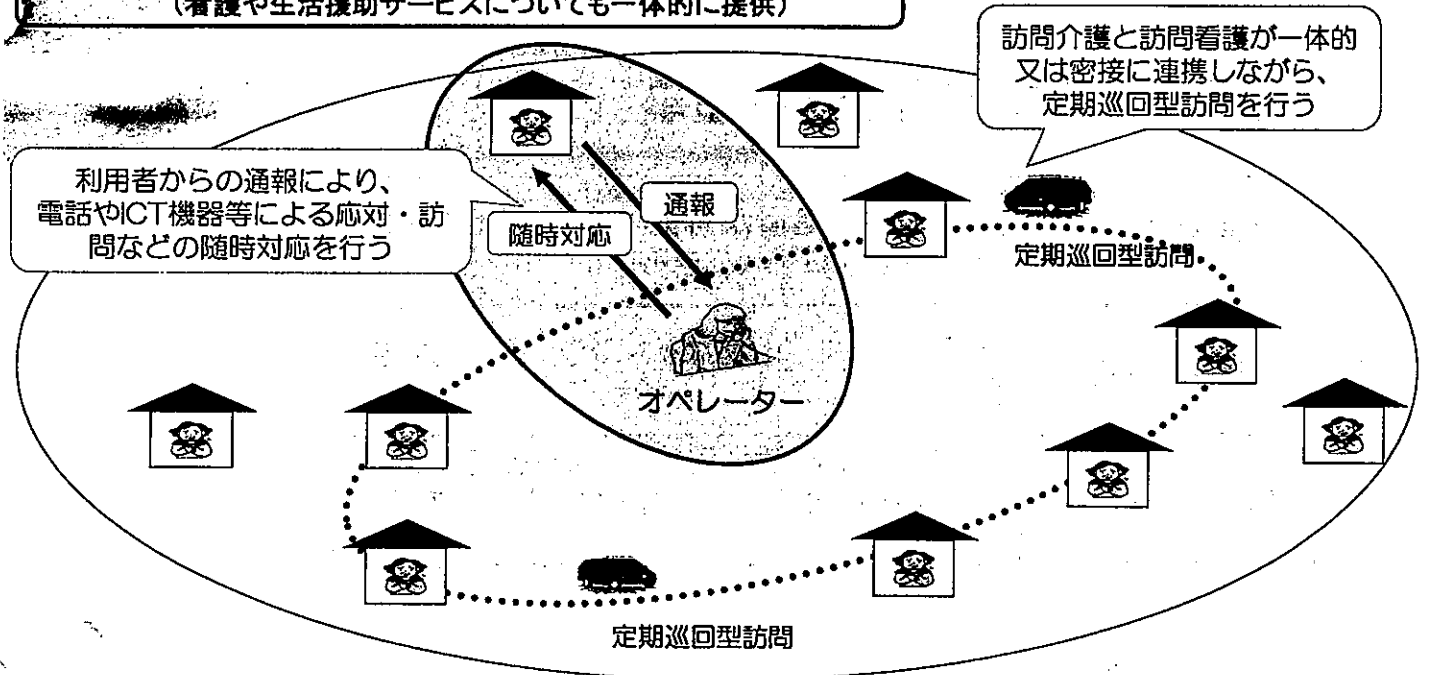
高齢者の在宅生活において、認知症状を患った方の人口が急増すると見込まれている為、これまで以上に利用者情報や日常生活の密な情報共有の連携が求められる。



# 9 定期巡回随時対応型訪問介護看護の概要

○ 重度者を始めとした要介護高齢者の在宅生活を支えるため、日中・夜間を通じて、訪問介護と訪問看護を一体的に又はそれぞれが密接に連携しながら、定期巡回訪問と随時の対応を行う「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」を創設（平成24年4月）。

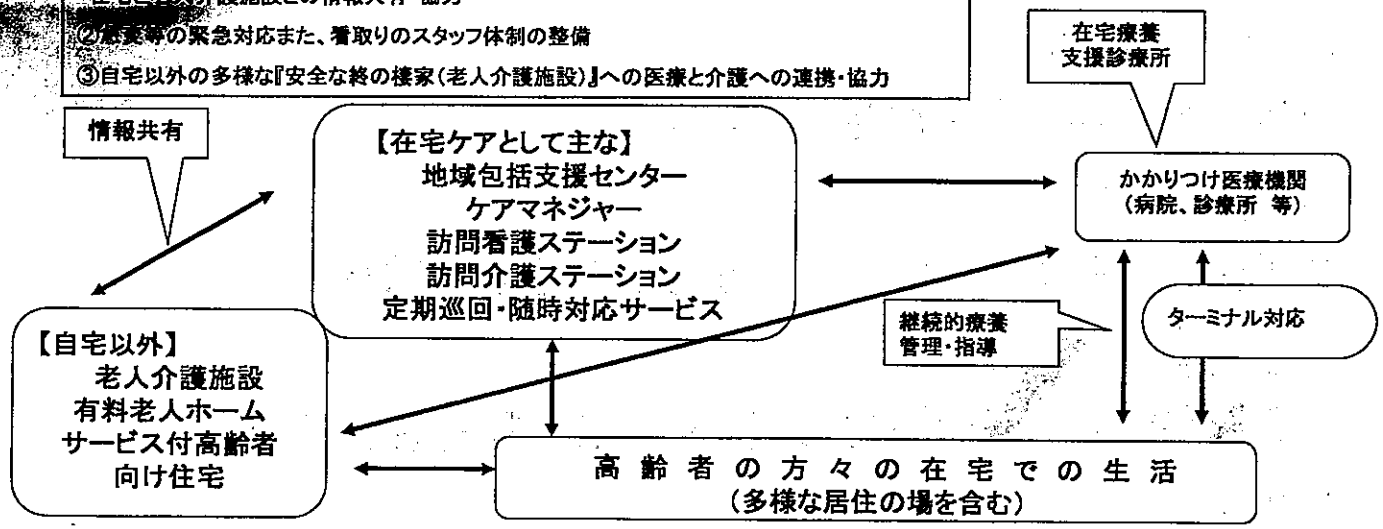
- 地域密着型サービスの一類型として創設
- 対象者は要介護者のみ（介護予防サービスは規定していない）
- 身体介護サービスを中心とした一日複数回サービス（看護や生活援助サービスについても一体的に提供）



# 10 当事業所が意識している在宅生活支援サービスの取り組み

■ 在宅生活支援において関係者間のスムーズな連携・協力  
在宅医療と介護の促進を図る上で、急性期等の機能を持つ医療機関から在宅又は多様な終の棲家へのつなぎを円滑に進める必要性。この円滑な連携を地域で行う上で、病院や在宅医療、各種の老人介護施設(サ高住)との連携は重要として位置づけられている。

- ① 他職種との連携
  - ・地域の病院や在宅医療を担う医師の取組の支援・協力
  - ・訪問看護ケアサービスのスタッフ体制強化
  - ・ケアマネジャーと在宅介護サービスとの連携
  - ・在宅と老人介護施設との情報共有・協力
- ② 急変等の緊急対応また、看取りのスタッフ体制の整備
- ③ 自宅以外の多様な『安全な終の棲家(老人介護施設)』への医療と介護への連携・協力



# 11 利用者(患者)の在宅生活支援において共有したい内容

利用者(患者)

基本情報(状態) ケア方法(手段) 日常生活(状況)

## ★入手できる事で可能となる事

看護師	情報により、処置が可能になる。総合的な判断から医師に相談できる。
ケアマネジャー	情報に沿って、適切なケアプランを作成できる。
ヘルパー	情報により、日常生活で起こりうる変化がわかり、適切なケア、状態悪化の防止ができる。

10

## 13 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(1)

### 【タイトル・サービス形態】

『本サービス利用で本人らしい生活を過ごして頂く(介護のみ)』

### 【利用者】

T様 60代後半 女性 要介護度 3

### 【住所、世帯】

神戸市中央区、集合住宅(賃貸)に独居

### 【家族構成】

独り暮らし。子が母国に1人いる。兄弟・子とは疎遠

### 【病名】

脊柱管狭窄症、萎縮性胃炎、高血圧症、胆嚢除去手術、白内障

11

### 13. 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(2)

#### 【生活】

アメリカ、カリフォルニア州の出身。直近での職業は日本の大学常勤講師をされていた。自宅にて独り暮らしをされていたが、前記病名が原因で下肢に支障をきたし且つ、白内障の手術と治療を主理由にて入院。退院と同時に、現在の生活となる。

#### 【ADL(移動)】

入院時はベッド上での生活が主。ベッド→車椅子への移乗は介助あれば可能であった。

退院後は、ベッド横に立ち上がりバーを設置。

バーを使用して立ち上がり車椅子への移乗を自力で行う。

#### 【ADL(更衣)】

脊柱管狭窄症あるも、出来るだけ自力で着用される。

12

### 13. 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(3)

#### 【清潔】

大柄で体格もよく、下肢の自力動作に制限があるため、

居室→浴室、また浴室→居室への移動・移乗が困難。

浴槽を跨ぐことも困難な状態であり、本人も不安感から浴室への移動を拒否。

本人の希望により、退院時から清拭が清潔保持の為に主たるケアサービスとなる。

現在、浴室までの移動・移乗手段とシャワー浴実施に向け、本人へ提案中。

#### 【服薬】

白内障関連の目薬。高血圧症、排便促進に関連する薬を自身にて毎日服用。

時々、うっかりと飲み忘れることある為、服薬確認を行う。

13

### 13. 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(4)

#### 【コミュニケーション】

母国語が英語であるゆえ、主発語は、英語。

本人は意識して、日本語を発してくれるが、解釈が複数受け取れる言葉には、「わからない」と疎通が困難な場合あり。

時には、スマホアプリを使用しての会話を行う場面あり。

提供事業所として、本人の本当の思いを確実に理解できていないのでは？との不安あり。

#### 【ADL(排泄)】

入院時はオムツ装着を主とされていたが、退院後にはリハビリパンツ+パットを装着を主とし、便意・尿意を感じるので、ベッド横のポータブルトイレを使用する。

但し、体調よくない場合は、リハビリパンツやパット内での排泄となる。

14

### 13. 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(5)

#### 【サービス導入までの経緯】

今年5月、〇〇病院に白内障手術の為、入院。

入院以前から脊柱管狭窄症から両下肢に力が入らず、立位と歩行の大幅な不安定さが平行して見られた為、その症状に対して

の  
リハビリ訓練も退院に向けて同時に行ってきた。

しかし、本人は脊柱管狭窄症からの下肢の自由が利かない事に不満があり、自身の中で納得がいかず訓練にあまり熱心でなく、6月の退院に際し自宅内生活では、移動・移乗時に転倒を繰り返す事を担当ケママネジャーが懸念し、随時訪問も付随された「定期巡回随時対応型訪問介護看護」にて身体的サービスを主とし、生活全般を支援する事となる。

15



### 13 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(6)

#### 【訪問看護側からの助言】

本サービスでは「介護のみ」としての提供であるが、月に1回看護師がモニタリングとしてケアサービス提供利用者宅を訪問し、健康チェックを行っている。その訪問で感じた状態から助言を受ける。

「本人が自宅内移動の際、車いすを使用しているが、本人の認識と違って、下肢の行動範囲に制限があって、よくぶつけてしまい、下肢に内出血を作っている」

「身体状態とハード面での環境が合っていないのでは？」

#### 【助言を参考にししての提案】

助言を担当ケアマネジャーとも相談。賃貸住居であるゆえ、住宅改修の導入に限界あり。下肢や日常生活動作の訓練として、デイケアや訪問看護&リハビリを提案するも拒否。

16

### 13 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(7)

#### 【ケア実施内容】

- |       |                                    |             |
|-------|------------------------------------|-------------|
| ・定期訪問 | 身体介助に伴う日常生活支援                      | <u>2日/週</u> |
|       | 就寝前介助を含めた身体介助                      | <u>7日/週</u> |
| (詳細)  | 排泄、更衣、口腔ケア、移動・移乗、清潔洗濯、清掃、食事に掛かる軽支援 |             |
| ・随時訪問 | 緊急コール通報から必要時に訪問                    | <u>随時/日</u> |
| (詳細)  | ベッド・車いすからの転落時、起き上がり困難時の介助          |             |

☆家政婦サービス 介護保険外での生活面サービス 1日/週

17

### 13 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(8)

#### 【訪問予定について】

サービス導入時は、身体的状態よりもプライベートを非常に大切に  
にする為、訪問回数は最小限を希望。

しかし、介護サービスを受ける事に抵抗感も和らぐと信頼できる  
と判断されて、1日複数回訪問に切り替わった。

18

### 13 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(9)

#### 【サービス実施経過】

本人宅に訪問するヘルパーを認識・理解して貰うのに、対面  
とコミュニケーションでの対話を用いて1, 2週間がかかった。

開始当時は、前記のケア実施内容を提供すること、本人も受  
けることだけに集中していたが、最近ではヘルパーへの認識・  
理解・信頼感も生まれ、ケアサービス提供もスムーズに受け  
入れて貰っている。

随時訪問の理解が出来た分、自己移動・移乗機会も増え、転  
倒やすべり落ちる場面も増えた。

#### 【導入後の効果】

日々の身体状態の変化がキャッチでき、ヘルパー間はもちろ  
ん。担当ケアマネジャーへの報告によって、自宅外(医療機関  
)への連携先への具体的提供が出来ている。

本人も随時コールでの早期訪問により、安心感を得て貰っ  
ている。

19

### 13. 定期巡回随時対応型訪問介護看護の事例から(10)

#### 【提供を通じて課題と感じた事】

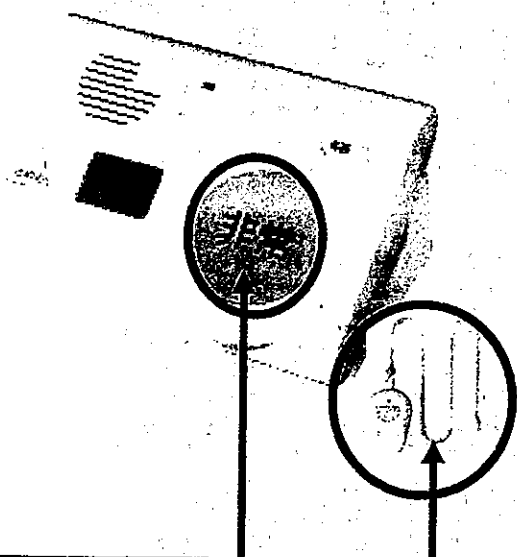
1. 身体面での不安では、萎縮性胃炎での嘔吐が頻回にあり、治癒に向けた抑制の手段が必要であったが、本人も頑なに往診医・訪問看護の導入を拒否し続けたが、このサービス必須である定期モニタリングでの協力があり、利用者の状態が看護面からのキャッチが出来、助言ももらえた事で安心して介護提供を続けられた。

2. 服薬管理に関しても、専門職への拒否があったとしてもより確実な服用実施を行うには、「管理指導を含めた薬剤師の導入があれば」との今後の課題も残った。

20

神戸市 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ご利用者の皆様へ

#### ケアコール端末の機能



注意点  
うっかり押ししてしまった・・・  
など問題がなければ、訪問はいたしません。  
お話をしているときに「間違えました！」  
「元気ですので大丈夫！」とお答えください。  
こちらから電話を切ります。  
(リセットの必要はありません)

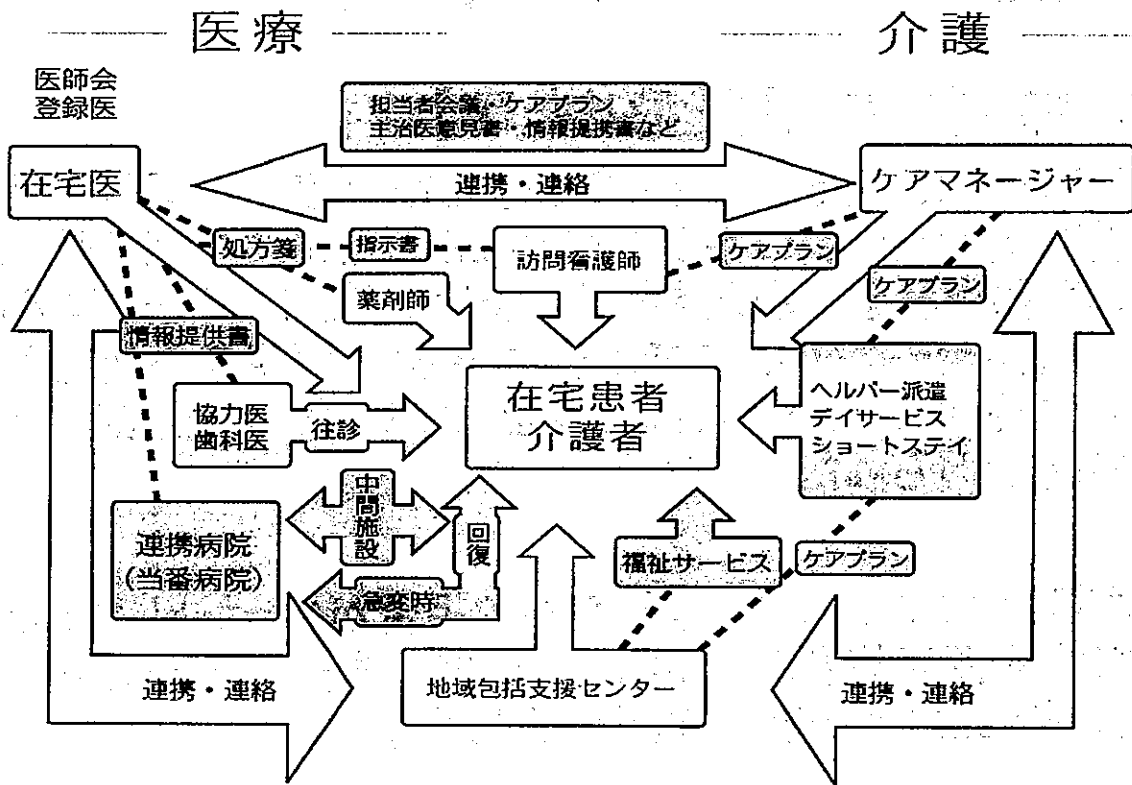
#### 緊急ボタン（本体・ペンダント）

緊急時、ここを押して下さい。オペレーターと会話出来ます。  
必要に応じて、ヘルパーがすぐに駆けつけ必要なサービスを提供します。

【お問い合わせ先】 コウダイケアコールセンター 兵庫県神戸市中央区八幡通3丁目1-14 3階

電話：078-855-8028 FAX:078-271-8270

21



## ご報告、ありがとうございました

神戸市内では、今年1月からサービス提供拡大を図るべく各区に1事業所ずつ認可が下りました。当社におきましても、まだ1年間と短期間であり、実績・事例も少ない状況において、しっかりとお伝えできたのか？と不安がたくさんございます。

- ・在宅訪問での介護・看護ケアサービス提供によって、その人らしく安心して自宅で楽しく毎日を過ごしていただく為、「生活を観て、ケア援助を行い、生活リズムの構築に努める」が我々の役目と思っております。
- ・本ケアサービスは、まだまだ周知が必要な段階でありますので、今回を機に皆様に知って頂ければ、幸いです。